



# 横田小だより



平成27年2月27日発行  
高岡市立横田小学校

## いつでもあたたかく振る舞える子供に

教務主任 凜 葉子

春の日差しを感じる日が多くなり、平成26年度も残すところ一か月となりました。

さて、今年度も4月に全国学力・学習状況調査が実施されました。中でも学習状況調査に関する質問紙で、本校の6年生が「最後までやり遂げてうれしかったこと」の項目に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合は100%でした。最高学年の6年生が「自分にもできる」「がんばってよかった」と思える子供たちであることをとてもうれしく思いました。そのような子供たちに育っているのは、本校が学校や家庭で相手のために自分にできることを決めて実行する「あったか活動」に取り組んでいるからだと思います。



「あったか活動」を全校で取り組むようになったのは、5年前です。それまでは、オアシス通りの清掃等、学校のために奉仕する活動は6年生が行っていました。当時6年生担任だったわたしも4月当初クラスの子供たちに「学校のみみんなを笑顔にできる6年生になろう」と投げかけ、1年間「スマイル活動」に取り組みました。そして、2月には自分の1年間のがんばりを家族や5年生にポスターセッション形式で伝えました。この発表で子供たちから「学校のために何かしようという思いをもてるようになった」「自分で考えて工夫して行動できるようになった」「友達のがんばりから一生懸命取り組むことの大切さを学んだ」「自分の活動で人を笑顔にできると分かった」「誇らしい気持ちでいっぱいだ」などの感想が聞かれました。自分の思いを行動に表すことの難しさや継続して取り組むことの大変さを感じ、成功や失敗を繰り返しながら、それでも人のために役に立っている喜びや充実感を味わうことができました。

そして、「『あったか活動』は6年生だけでなく全校で取り組もう」と学校の取組に決めてから、今に至っています。始めたころは、自分のことで精一杯の1年生にできるだろうかという不安もありましたが、当時も今も1年生は楽しんで「あったか活動」に取り組む姿が見られます。「あったか活動」にしっかり取り組んでいる子供は、人のために労を惜しまず働こうとする姿につながっていると、いろいろな教室に出ていて感じます。習字の時間に自分の机の上だけでなく、教室を回って墨で汚れた床を見つけて拭く子供、みんなで使った版画インクで汚れたパレットを休み時間に進んできれいにしている子供、朝読書のために学級文庫の本を取りにいったときに本の乱れを直している子供等、このような子供の姿は、いろいろな学年で見ることができます。学校のリーダーである6年生は、わたしが行事の準備をしていると「お手伝いしましょうか」と声をかけてくれます。

今年も2月17日に6年生が5年生に「あったか活動」の取組を伝えるポスターセッションが行われました。自分の取組から自分の成長を実感し、自信をもって伝える6年生の姿に、横田のよい伝統がしっかり受け継がれていくように感じました。



ポスターセッション

このような活動を通して、「自分もまんざらではないな」「人の役に立って、うれしいな」と感じる事が自己存在感や自己有用感につながります。これからも、「みんなのために～してくれてありがとう」「〇〇さんがしてくれたおかげで、助かったよ」とあったか言葉をかけ、「あったか活動」が特別なものではなく、日常的に行われるように子供たちを励ましていきたいと思っています。

